

会報

[広報誌のインデックスへ戻る](#)

第3号

1994年12月1日

発行 埼玉県大学・短期大学図書館連絡協議会
編集 東京国際大学図書館
城西大学水田記念図書館



緑陰断想 —バニヤン樹の下で—

文教大学越谷図書館館長
石原 武

ハワイ諸島にはバニヤンという巨樹があちこちに堂々と緑陰をひろげている。もともとインドからもたらされたものらしく、Banyanという樹名もインドの貿易商にちなんで命名されたという。水平に存分に伸びた枝から、気根が地面に向かって成長し、枝の重みを支えている。幹を取り囲んで林立する気根の間に想わぬ洞窟が出来て、子供たちの格好の遊び場になる。どのバニヤンも樹精たくましく、緑陰は大きく、午睡に夢が見られるほど深い。

ハワイ大学のキャンパスに茂る巨樹はインドボダイジュで、バニヤンの仲間だという。しかし、こちらには気根はない。1972年、このキャンパスを訪れたとき、日本に帰らずに、この緑陰に居座っていたい衝動を覚えたものだ。当時日本はオリンピック後の高度成長期で、森がいたるところで壊滅していた。

この夏はもっぱら気根の洞窟を抱えたバニヤン樹の緑陰で午睡の夢を楽しんで過ごした。遙かな海の律動に、夢はいつ果てるともなく続いた。

来し方の夢に わたしはもう帰れない
苔むす崖をはぎ 透明な流れを歩き
わたしはオアフ島の山川を行来する
渚の波に戯れ 岩礁でマカジキを生捕り
大地のわざで バナナやウルやパパイを育て
そこにわたしはもう帰れない

ジョセフP・バラズという詩人が歌っている。その哀切にみちた音韻を唇にして、私は目覚める。

ネイティブ・ハワイアの詞華集*Ho'ouanoa*を、私は旅のすがら見つけ、幾度となく緑陰で開いた。*Ho'ouanoa*とは、「茂らせる」という意味で、現在約2千名のネイティブ・ハワイアンが、アメリカ合衆国によって奪われたハワイ語とハワイ文化の復権に献身しているという状況を、この詞華集で知った。かれらの努力によって、19世紀末(1898)には既に同化を強いられ、消滅しかけていたハワイ固有の文化が復権し、茂ることができるのか、覚束ないけれど、かれらの遙かな志は、その詩の律動によって、私の心に響いた。


ダナ・ナオネ・ホールという女流詩人は、「ハワイ1989年」という詩を次のように語っている。

終夜 雷神が空に光り 雷鳴の轟きに わが海
の女神は美しき女体を 紅き花咲く木に変える
海藻を食べ フカと泳ぎ 魚いっぱい網から
ヤツラを追い払った男は死んだ しかし長い枝
の先に咲き匂う白いハイビスカスの花のように
わたしたちはここに今も生きる

現代の文明の行先不明の状況に生きている私たちにとって、ネイティブ・ハワイアの、咲き匂う白いハイビスカスの志は、それがいかに遠い道であっても、美しくゆれる海のように眩しい。

バニヤン樹の深々とした緑陰にあって、私の夢想は続く。

大学図書館が学術情報のキーステーションとして、教育・研究に中核的な役割を果たすことは論を待たない。さらに今日一層電子資料への期待が大きくなり、図書館サービスの変革が求められている。この状況をふまえながら思うことは、図書館の機械化と併せて、比喩的にいえば、深い緑陰の必要性である。合理的に学術情報を検索する機能と、静かに夢想に耽けることのできる緑陰とが、図書館に共存してほしいものである。



《特別寄稿》

図書館のネットワークについて

埼玉県立浦和図書館館長
村田 文生

先頃、クリントン政権が打ち出した情報ハイウェー構想は大きな反響を呼び、わが国でもマルチメディア時代の到来が声高らかにうたわれてきている。

一方、人々の価値観は多様化し、人々の生活行動圏は広域化してきている。

また、生涯学習時代の到来は人々の学習活動への参加意欲を高め、図書館へ寄せる期待も増大してきている。

このような社会的背景の中で、公共図書館も大きな変革を余儀なくされようとしている。それは、図書館が情報センターとしての役割やネットワークセンターとしての役割が求められてきていることだ。

このことについては、平成5年3月埼玉県立図書館将来構想検討委員会の報告書で指摘されているところである。同書によれば、情報センターでは、「何でも分かる図書館」を目指して、あらゆる主題にわたる多様な形態の豊富な資料の中から、コンピュータによる検索などを駆使したレファレンスサービスの提供の役割が、また、ネットワークセンターでは、県立図書館が所蔵していない資料・情報についても、県内外の公共図書館をはじめ、国立国会図書館や学術情報センターなどの情報、必要に応じ海外データベースを検索し、相互貸借、複写サービスなどによる提供、さらに大学図書館、各種研究機関、生涯学習関連機関等とのネットワークによる資料・情報の提供など人々の生涯学習を援助する機関としての役割があると提起されている。

したがって、これからの公共図書館は、専門領域ともいえる図書館の基本的役割をふまえ、社会の変化に対応した条件整備が早急に求められてくるのである。

中でも、特に高学歴化の中で、人々の求める学習も高度化し、生涯にわたって自己実現を目指した学習活動の展開が予測される。

そこで、公共図書館は大学図書館、専門図書館との有機的連携は特に重要と考えられる。

学術審議会学術情報部会が先頃出した報告書(平成5年12月)でも、大学図書館について「公共図書館では提供しえない高度な情報を地域社会や市民へ積極的に公開し、生涯学習活動を支援することが期待されている」として大学図書館が地域に開かれることを求めている。

ところで、図書館ネットワークの発展過程については「(資料の)相互貸借は、一定のルールと共同事業を中心とする図書館コンソーシアム(組合)に発展し、さらにコンピュータを通信回線によって目録の共同利用が行われるようになって、図書館コンソーシアムは図書館ネットワークの段階に発展することが明らかになった。」^(注)と述べられている。このように、ネットワークは相互協力が面となって広がり、施設や機関の間に作用しあっていくものであり、公共図書館と大学図書館のネットワークの整備はその結果として、情報や資料の相互交流が行われることにあると考えられる。

したがって、それが可能となる条件を整備することは、資料・情報を双方ともに利用が可能となるようなシステムの構築であり、その前提に相互の信頼関係の樹立がなければならない。

開かれた大学図書館を私たちは大いに期待している。そして、公共図書館とのネットワーク形成に向かっての業務も全体業務の一端に加えていただくことを期待している。

(注)北海道産業調査会編「地域図書館と情報ネットワークに関する研究」昭和57年11月



活動報告 '94

第7回総会の概要及び所感

城西大学水田記念図書館事務長
戸田 猛

第7回総会は、平成6年5月26日(木)・午後2時より、東洋大学附属図書館朝霞分館AVホールにおいて実施された。

当日の参加は、29館47名(委任状提出は11館)であった。

議事進行は早や7回ともなると、幹事館担当者も手慣れたものである。すこぶる

無事に終了した。

『報告事項』は、今迄は幹事館会議の議事内容の説明に終始したが、今回は、短期大学のアンケート結果の報告あり、県立浦和図書館の村田文生館長と幹事館との話し合いの報告もあった。

短期大学アンケートの中に出ている大きなテーマは、「予算不足」のことに集中している。人手不足、資料不足は元をただせば、予算不足に通じるわけだが、図書館に対する認識不足、理解不十分もあり、図書館側の説明不足につながる問題でもある。

無いものねだりは、自立心の欠けた者たちの言い分だが、教育機関の集団はまさしくそれに連鎖するようである。

又、協議会活動についての印象、感想、意見の中で、次の一行が目にとまり、これは的を得ていると思った。

- ・各図書館自体が活発化しないと、協議会も活発化しない。

この言葉には実感味がある。そしてもっと言わせてもらえば、図書館人各自が、起業者的精神をもって明るく行動すれば、必ずや先が見えてくると思う。

公立図書館との協議については、各種図書館のネットワークを将来的に考えた場合、県立浦和図書館の村田館長が「生涯学習」を強調されたことは、大変、先見性があるし、大学だとか公共機関だとかという垣根はいずれそんなにむずかしい問題ではなくなると思う。むずかしい哲学者面して“大変だ/大変だ!!”“これは我々がすべきことではない!”などと紋切り型答弁をされると、非常に無粋な、破壊的な私としては、これらの人物こそむずかしい日和見主義者と思ってしまう。

埼玉大学の小野崎氏が配付した資料の「公共図書館と大学図書館との協力」を読んでも、妨げている要因が、人手不足、図書館の閉鎖性などを見ると、まだまだ、図書館人各自の意識に視野の広がり不足、もう一点、実行して失敗した体験がない悲しい性につきまとって、上昇は見込めないようだ。あまり強気で言うと、君は何様だと言われそうだが、まあ、失敗ばかりしてきた体験者の愚痴と思ってお許しをいただきたい。

『協議事項』の中では、協議会の実際の家内事情は赤字である。お察し願いたい。分担金も2,000円から4,000円へ、そして近い内に6,000円へと値上げしなければ運営が不十分になる。各館のご協力を今後得なくてはならない。

最後に、東洋大学図書館朝霞分館の山田一字事務長（現在は他課へ異動）のお骨折りにより、東洋大学文学部長の神田道子先生よりご講演（「女性と職業」）をいただいた。協議会としては初めての企画だったが、大変有意義だったことは、懇親会時の話題で実証した。総会というセレモニーであっても、人が集まり、何かに向けて話し合う機会があることはすばらしいことだと感じた。

活動暦

'93年11月～'94年10月

1993年

- 11月 **第5回実務担当者研修会**
 26日 会場：早稲田大学総合学術情報センター
 出席：26館 49名
 司会進行：早稲田大学碓氷喜信氏
 内容：『早稲田大学中央図書館における総合閲覧担当業務の現状と問題点』溝淵日出世氏
 『早稲田大学中央図書館の和書整理の現状と問題点』菅原通氏
 『国際会議場紹介』遠藤雅司氏
 その後、国際会議場・中央図書館を見学

12月 **『会報』第2号発行**
 1日

1994年

- 3月 **第29回幹事会** 於：城西大学
 4日
- 5月 **第7回総会** 於：東洋大学朝霞校舎
 26日 出席：29館 47名（委任状提出 11館）
 司会：東洋大学山田一字氏
 議長：獨協大学永井純一氏
 記念講演：東洋大学文学部教授文学部長神田道子先生 講演『女性と職業』
- 7月 **第30回幹事会** 於：文教大学越谷校舎
 26日

10月 第31回幹事会 於:東洋大学朝霞校舎
14日

《今年度新規加盟館》

- 目白大学図書館
〒339 岩槻市浮谷334-3 Tel. 048-797-2143

(作成 編集担当)

加盟館紹介(3)

当会には、現在、大学25館、短大15館(大学との共用除く)が加盟。『自館紹介』方式で各館の様子を披露いただいています。シリーズ扱いですが、順不同はご容赦ください。

埼玉工業大学附属図書館

事務長
柳沢 三郎

埼玉工業大学は、まもなく創立20年の節目を迎える。とはいえ、学科数3の小規模校、その上工科系とあって、図書館はまだ充実した内容を備えるにはいたっていない。

建物は他の事務部門との共用である。2階の半分と3階を使用し、3階がメインのフロアである。この数年書架や座席を増設するなどして改善を図っている。資料についてもようやく増加し始めたところであり、いわゆる特殊コレクションを持つまでにはなっていない。最後に職員であるが、現在3名で業務を行っている。大学改革との関連で盛んに言われている情報化などの業務に対応していくのは、かなりむずかしい状況である。

こうしたなかではあるが、利用は年々確実に増加している。平成3年と5年の学生の利用をみると、1人当たり入館回数が6.3回から7.9回になり、貸出冊数は2冊から2.9冊になっている。入館者数で6割、貸出冊数は9割の増加であり、学生数の増加によるものばかりは思えない。相互貸借についても主として文献複写ではあるが、依頼ばかりでなく受付も増え始めており、こうした流れが、もっと大きくなることを願っている。

この夏の私立大学図書館協会総大会・研究会のメインテーマは、「足元を見つめつつ、大学図書館の新たな展開を」であった。これこそ、私どもの考えなければならぬことがらであると思っている。

埼玉医科大学附属図書館

課長補佐
小野沢 繁雄

JR東日本八高線毛呂駅の他、東武鉄道越生線東毛呂駅が専門課程図書館(本館)の最寄駅になります。

毛呂山町は、鎌北湖と新しき村の町というイメージの他、昭和47年埼玉医科大学の開学で、大学の町というイメージをもつことになりました。

地下1階地上4階の本館前庭には、小さな池があって、鯉を入れています。この池をみるかたちで、1回に吹き抜けのラウンジがあります。2階までの天井の高さ、窓の高さが空気を囲い込んだ感じを与えてくれます。ここだけを利用しにくる人もいます。図書館が提供するのには、閲覧室の空間にかぎりません。

昭和54年秋以来、本館では20時までの夜間開館を実施しています。(平日)附属図書館は、進学課程(毛呂山町)、総合医療センター(川越市)、短期大学(専門課程と同一構内)にそれぞれ置かれた分館(分室)を加えて、4館室で構成されています。

スタッフの数は館長、分館長(分室長)を除いて、19名です。所蔵冊数は全校で、20万冊に達しようとしています。

複写件数の多さは医学図書館の特徴の一つということが出来ますが、本館での利用の山は国試後の卒後教育の段階にあるようです。

最近CD-ROM MEDLINEを導入、サービスを開始しました。

女子栄養大学図書館

図書館長
朝倉 綾子

坂戸キャンパス現図書館は1963年教養部開設と同時に『教養部図書室』として発足、1980年保健栄養学科の開設に伴い建設され、現名称に改め今日に至っている。一階、中二階を書庫、二階にブラウジング、閲覧室、事務室を設け、三階の一部を視聴覚室として利用している。書庫には約5万冊の図書と雑誌520種を所蔵し利用に供している。資料の主たるもののうち栄養学及びその関連分野の専門書が三分の一を占めている。自然科学系の教育・研究が多いのである。外国雑誌も医学などの自然科学が中心となっている。従って人文・社会科学系の図書選定には心を配っている。また1993年に文化栄養学科を開設した為、蔵書の構成が幅広い分野となりつつある。

学生の利用状況は図書貸出が学生の14%位で低いが、閲覧、雑誌の複写等はよく行われている。学外データベースの利用は図書館員による代行検索であるが、ここ二・三年教授からの依頼により院生への情報検索指導を実施している。主なものはJOIS、STN、NACSIS-IRである。

機械化は1986年にNECパソコン、図書整理業務『LIBROS』を導入しデータを構築してきた。1991年頃より駒込キャンパスとのLANによるデータ共有化を目標に第二次機械化の検討を始め、1994年にIBM AS/400による機器構成、図書館総合システム『CLIS-U』を導入し、1995年4月稼働を目前に控えている。図書館員は紀伊國屋書店、サン・データセンターを交えその準備に多忙を極めている。

武蔵丘短期大学図書館

司書
前川 朋江

本学は、平成3年4月に開学した新しい短期大学です。その名の通り武蔵野の丘陵地帯にキャンパスを構えており、すぐ隣が松山城跡のある城山、その隣が吉見百穴、前に市野川と、豊かな自然に囲まれています。

学科構成は、1学科(健康生活科)2専攻(健康・栄養専攻と健康・体育専攻)です。健康な生活を営むために必要な、エネルギーの供給(栄養)と消費(体育)の両面からの専門知識を深め、「健康プロフェッショナル」を育てることが本学の目的です。

図書館は本学舎の東北端の地階にあります。半地下設計となっているので、閲覧席側は全面窓に面し、とても明るく見晴らしの良い位置にあります。

図書館スペースは400m²、閲覧席50席、蔵書冊数1万5千余、雑誌所蔵タイトル数54種ほどの規模の全面開架式の図書館です。

職員は常勤1名非常勤1名の計2名、奉仕対象者が学生・教職員合わせて約630名です。

蔵書は、食料・栄養、体育関係の図書をはじめ、医学、教育関係の図書等多岐にわたっております。今後は、蔵書数を計画的に、体系的に増やすとともに、本学建学の健康生活に関わる関連専門分野の図書や他の分野の図書を考えながら、いっそうの収集に努める方向です。

新しく開設した図書館で、学生等に親しみやすく、楽しく利用できるような図書館づくりを目指したいと考えております。


共栄学園短期大学図書館

図書館職員
茂木 代美

共栄学園短期大学は、英語学科(英語専攻、秘書専攻)、住居学科、社会福祉学科(社会福祉学専攻、児童福祉学専攻)からなる男女共学短大である。今年創立10周年を迎える。図書館は、構内の中心にあり、単独館で広々しているイメージが強いのと、図書館なら何でも大事に取っておいてくれるとの先入観があるらしい。その一つとして、住居学科の「世界の椅子コレクション」21点が館内に点在し、座りごちを競っている。好みの椅子に座り雑誌等を読んでいると、贅沢な気分ひたれるらしく人気がある。

現在蔵書約42,000冊、利用対象者は教職員を含めても1,000名に満たない。しかし、利用者の要求は増してきており、県立図書館や各大学図書館の世話になってばかりいる。図書館の電算化も必要に迫られ、学術情報センターを中心としたネットワークシステムに加入すべく準備を始めている。せめて共栄短大の蔵書目録データベースを作成したい。そして大学間総合目録データベースによる検索が自館でできるようにしたいものである。また、受け入れ業務に日々追われるだけでなく、利用者の欲しい情報の調査援助をするレファレンスワークにももっと力を注ぎたいと思っている。そのためには教員との連携は欠かせないし、館員の

学ぶべきことは多い。電算化と共に本来の図書館の有り方を考えさせられている。



報告二題

実務担当者研修会について

実務担当者研修会は当協議会全体行事の一つの柱として、年1回のペースで開催され、昨年度で第5回を数えるに至った。加盟館館員全体を対象とした会合であるが、総会とは一線を画した内容(現場サイド、実務レベルでの研修)を趣旨に実施している。

第1回は『相互協力について』をテーマとし、その結果翌年『相互利用制度(共通閲覧証)』の発足に繋がった。第2回『オリエンテーション・文献ガイダンスをめぐって』は現場サイドでそれぞれ工夫したガイダンス・利用指導等を発表。第3回『外国雑誌をめぐる諸問題』は業者の雑誌システム・現状の披露と各館で抱える問題点との接点をみた。第4回『紀要の収集について』は受入・保管の現状と分担収集の可能性について討議された。第5回は早稲田大学総合学術情報センター見学と現行業務の説明を得、大規模先行館に触れる機会をもてた。

規模も実情も異なる館の集合体という現実はあるが、共通の問題・テーマは星の数。今後も、そのすり合わせの場が本会合でありたい。

幹事館会議報告

◆今年度代表幹事館は互選により「文教大学越谷図書館」となりました。続いて、企画、広報、会計等の役割分担を取り決めました。

◆『相互協便利覧』改訂版の刊行について

現在、作業部会(文教大学、埼玉大学、聖学院大学、明の星女子短大)にて原案を検討中です。原案にもとづき、費用、配布等も含め幹事館会議にてさらに討議を重ね、「来年度には刊行」を予定。

◆第6回実務担当者研修会の開催について

日程、会場、テーマ、役割分担、段取り等を検討・討議。12月8日(木)跡見学園女子大学にて『これからの紀要収集業務の在り方』をテーマに事例報告・討議、懇親会を行うこととしました。

◆年会費値上げの件について


今年度総会にて『協議会事業を推進していくには現状で赤字の旨報告し、年会費値上げについて今年度幹事館会議で検討することが承認』され、検討を重ね、結果、「値上げ」(原案)を取り決めるに至りました。これにより、加盟館宛文書にて報告・提案・意見収集、次回総会にて報告の手順を踏むこととしました。

以上報告二題とします。

(文責 田口稔)



加盟館名簿 ……省略



インフォメーション

- 今年度、全国図書館大会のテーマは手をつなぐ日本の図書館 ネットワークの広がりをめざして。私大図協総大会では「足元を見つめつつ、大学図書館の新たな展開を」。私短図協全国研修会では「ミュージック・ライブラリーの時代 -音楽情報へのアクセスをめぐって-」(基調講演)。ネットワーク、情報化、サービスの充実、図書館振興などが共通のキーワードだったようです。
- 当協議会への意見・提案・情報等ございましたら、ぜひ、最寄の幹事館までお知らせ下さい。



編集後記

『会報』第3号をお届け致します。今回は巻頭言を代表幹事館の文教大学越谷図書館館長石原先生に、埼玉県立浦和図書館館長村田先生にはネットワークについて執筆頂き、5館の館員の方々から『加盟館紹介』の寄稿を得て、刊行に至りました。ご多忙の中、ご協力を深謝申し上げます。

当協議会も設立7年、加盟館40館と徐々に組織的体裁を整えてきていると存じます。本紙の充実もこれに並行していかなければならないと編集担当者一同認識はしていますが、重い課題です。忌憚ないご意見を頂ければ幸甚です。そして、大いに寄稿頂きたいと存じます。

(東京国際大学 田口稔)

[広報誌のインデックスへ戻る](#)

.....
Last Update : 2001.03.08
webmaster@sala.gr.jp